

村越としや / ワン・トゥオ / スイ・タカ /

fumiko imano 《our first dinner spaghetti/paris/2021》〈le fumistol〉より 2021 年
フォトモンタージュ（発色現像方式印刷）作家蔵 ©fumiko imano

Murakoshi Toshiya / Wang Tuo / Sui Taca



東京都写真美術館 2階展示室
恵比寿ガーデンプレイス内

〔主催〕公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

〔協力〕三影堂撮影芸術中心

〔協賛〕東京都写真美術館支援会員

TOP MUSEUM

2026年9月30日(水) —

当代亞洲
デュエット — アジアン・コンテンポラリー
DUET
二重奏

ASIAN CONTEMPORARY |

— 2027年1月17日(日)

〔開館時間〕 10:00–18:00 (木・金曜日は20:00まで)

※入館は閉館の30分前まで

〔休館日〕 毎週月曜日 (月曜日が祝休日の場合は開館し、翌平日休館)、
年末年始 (12/28–1/1)

〔観覧料〕 一般 900 (720) 円 / 学生 720 (570) 円 /
高校生・65歳以上 450 (360) 円

※()は有料入場者20名以上の団体料金。

※中学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者(2名まで)は無料。

※第3水曜日は65歳以上無料。1月2日(土)、3日(日)は無料。

※11月5日(木)～27日(金)の木・金曜日17時～20時は夜間特別開館による割引料金

(学生・高校生は無料、一般・65歳以上は団体料金。学生証・年齢が確認できるものをご提示ください)

※事業は諸般の事情で変更することがございます。各種割引、オンラインチケット等を含む
最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。



Luo Yang / Jiang Pengyi / fumiko imano

ルオ・ヤン / ジャン・ポンイー / fumiko imano

デュエット ― アジアン・コンテンポラリー

DUET

二重奏

ASIAN CONTEMPORARY

このたび、東京都写真美術館では、中国と日本の現代写真・映像作品を紹介する展覧会「デュエット ― アジアン・コンテンポラリー」を開催いたします。本展は、「愛について アジアン・コンテンポラリー」展(2018年)に続くシリーズ第2回目の展覧会であり、三影堂廈門撮影芸術中心のエグゼクティブ・ディレクターを務めるテン・チンユン(滕青云)氏との共同企画です。国際的に活躍する写真家ユニット、榮榮&映里(ロンロン&インリ)によって2007年に北京で設立された三影堂撮影芸術中心は、写真のための複合施設として重要な役割を果たしてきました。2015年には福建省の廈門^{アモイ}に新たな拠点がオープンし、中国の写

真文化を国内外に発信する中心的な場となっています。「デュエット」とは、本来二人で奏でる音楽形式を意味します。異なる声や旋律が互いに応答しながら、一つの表現を形づくるそのあり方は、本展におけるアーティストたちの対話にも重なります。本展では、この「デュエット」という言葉を手がかりに、異なる視点や背景をもつ作品が同じ空間に並び、複数の視点や文化、時間、そして個人の経験が交差することで生まれる関係性や響き合いを探ります。

〔企画協力：榮榮&映里〕

村越としや

1980年、福島県須賀川市に生まれる。2003年に日本写真芸術専門学校を卒業。2009年、東京・清澄白河に自主ギャラリー「TAP」を設立。日本写真協会賞新人賞(2011年)、さがみはら写真新人奨励賞(2015年)受賞。東京国立近代美術館、サンフランシスコ近代美術館などに作品が収蔵されている。2006年以降、故郷の福島を被写体に、人々や土地の記憶をなぞるように撮影を重ねてきた。2011年以降は、特に県内各地へ足を運び、風景を通して、変化や矛盾、知覚や認識の違いを見出そうとしている。

ワン・トゥオ(王拓)

1984年、中国・吉林省に生まれる。2007年、東北師範大学生物学科卒業。2012年、清華大学美術学院で絵画の修士号を取得。2014年、ボストン大学でMFA(絵画)取得。2017年より、四部にわたる映像連作〈The Northeast Tetralogy〉に着手。中国東北部を起点に、歴史的出来事から現代社会の事件、民間伝承までを翻案し、再構成。登場人物たちの境遇を時空を超えて結びつけることで、土地に刻まれた近現代中国の歴史の断層を浮かび上がらせる。

〔関連イベント〕

- ・シンポジウム
10月3日(土) 13:00-14:30
〔登壇者〕テン・チンユン(滕青云／本展共同企画者)、グウ・ゼン(顧铮／写真評論家・復旦大学新聞学院教授) 伊藤貴弘(本展担当学芸員)
〔会場〕東京都写真美術館 1階ホール
〔定員〕190名
(整理番号順入場／自由席／日中逐次通訳付／手話通訳・文字表示支援付)
〔参加費〕無料
※当日10:00より1階総合受付にて整理券を配布します。
- ・インクルーシブプログラム「手話を交えたQ&Aショー」
12月12日(土) 14:00-15:00
〔質問者〕小笠原新也(耳の聞こえない鑑賞案内人)
〔定員〕50名(手話通訳・文字表示支援付)
〔参加費〕無料
※プログラムの詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
TEL: 03-3280-0099 www.topmuseum.jp

スィ・タカ(塔可)

1984年、中国・山東省に生まれる。2003年、北京の中央美術学院に入学。2005年にアメリカへ渡り、2007年よりロチェスター工科大学写真学科で学ぶ。2010年、中国最古の詩集『詩経』に詠まれた中原(中国北部の黄河中下流域)の地を巡った写真シリーズ〈Odes〉で、連州国際写真展年度写真家賞を受賞。本展の出品作品である同作は、メトロポリタン美術館にも収蔵されている。

ルオ・ヤン(罗洋)

1984年、中国・遼寧省に生まれる。2009年、魯迅美術学院グラフィックデザイン学科を卒業。在学中から写真を始め、2007年にスタートした、同世代の女性たちをフィルムで撮影した長期シリーズ〈Girls〉で、国際的な注目を集める。2019年より、1990年代後半から2000年代生まれの中国の若者を被写体にした〈Youth〉を開始。同年、ジメイ×アルル国際写真フェスティバル女性写真家賞を受賞。2024年には欧州等に暮らすアジア系移民のアイデンティティや各々の経験を記録した〈Diaspora Birds〉を発表した。

ジャン・ボンイー(蒋鹏奕)

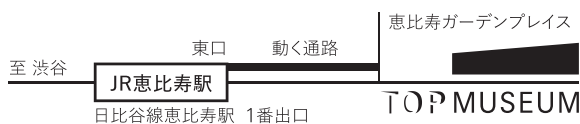
1977年、中国・湖南省に生まれる。1999年、北京芸術設計学院を卒業。2014年、中国美术学院大学院修了。2009年に第1回三影堂写真賞ティアニー・フェローシップ賞受賞。2010年、ソシエテ・ジェネラル・チャイニーズ・アート・アワード審査員大賞、2011年にアレッティ・アートヴェローナ写真賞を受賞。写真というメディアの物質性と表現の可能性を追求し、本展の出品作品〈Dark Addiction〉は、堂の生物発光の軌跡をフィルムに直接記録するカメラレスの技法で制作されている。

fumiko imano

1974年、茨城県日立市に生まれる。2歳から8歳の幼少期をブラジル・リオデジャネイロで過ごす。1997年に渡英。ロンドンのセントラル・セント・マーチンズでファインアートを学び、2001年、ロンドン・カレッジ・オブ・ファッションでファッションスタイリング&フォトグラフィーコースを卒業。アイデンティティへの問いからセルフ・ポートレート写真を始め、架空の双子の姉妹を登場させるコラージュ作品を展開している。

- ・担当学芸員によるギャラリー・トーク
10月16日(金) 14:00- ※文字表示支援付き
11月20日(金) 14:00- ※手話通訳付き
12月18日(金) 14:00- ※手話通訳付き
※当日有効の本展チケットまたは展覧会無料対象者の方は各種証明書等をご持参の上、2階展示室入口にお集まりください。

事業は諸般の事情で変更することがございます。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。



JR 恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分。当館には専用の駐車場はございません。お車でご来場の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。



村越としや〈より深い静けさのために風は唱う〉より
2016年 ゼラチン・シルバー・プリント 作家蔵



ワン・トゥオ《Smoke and Fire》
2018年 シングルチャンネル4K ヴィデオ 作家蔵
Courtesy the artist and WHITE SPACE

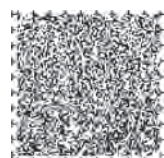


スィ・タカ《Heaven Guards》〈Odes〉より
2024年 インクジェット・プリント 作家蔵



ルオ・ヤン《San 2》〈Girls〉より
2026年 発色現像方式印画 作家蔵

音声コード (Uni-Voice)



専用アプリでチラシの内容を
聞くことができます